

徹底した少人数・双方向教育による 会計専門職の養成

北海道大学会計専門職大学院教授 春日部 光紀
Mitsunori Kasukabe



北海道大学アカウンティングスクール(北大AS)は、これからの社会で求められる質の高い会計専門職の養成を目的として設置されました。社会がますます複雑化・多様化する中で、会計専門職には、強固な倫理観を基盤として、未知の問題・唯一絶対の答えが無い問題に対応していくことが求められています。北大ASの授業は、このような社会からの期待に応えるべく、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイングを取り入れた少人数・双方向教育を基本とし、能動的な思考力・行動力の涵養をはかっています。例えば、必修科目である「会計職業倫理」では、複数の対応方法が存在する問題を含む、架空のケースを題材にディスカッション・プレゼンテーション等を行うことで、多様な意見・立場の理解と、自らの見解を、説得力をもって示す力の涵養をはかっています。

以下では、こうした教育を実際に経験している現役学生と、現在、公認会計士・税理士として社会で活躍している修了生の声をつづじて、北大ASの講義の特徴や、講義で得られた知識・スキルが実社会でどのように役立っているのかを紹介しします。

現役学生の声



宮本 桜桃さん
2023年北大AS入学
2023年公認会計士試験論文式試験合格

①なぜ北大ASに進学したのでしょうか

私は北海道大学経済学部出身で、ゼミの先生が北大AS出身であったり、先輩が在籍してい

たりと、もともと北大ASを身近な存在として感じていました。そして私自身、公認会計士を目指していたので、先生や先輩の話聞いていくうちに、進学を考えるようになりました。

進学を決定付けたポイントとしては、公認会計士を目指す人にとって最適な環境であったという点があげられます。授業が午前中に集中して開講されているため、午後は自分の勉強時間に費やすことができます。また、同じ試験合格を目指す仲間と切磋琢磨できる環境があるということに、とても魅力を感じていたことも大きなポイントになりました。

②ディスカッションやプレゼンテーション中心の授業の印象はいかがですか

私はもともと人前に出たり、授業で発言したりするようなタイプではありませんでしたが、積極的に発言できるよう改善していきたいと思っていました。北大ASの授業はディスカッションやプレゼンテーションを行うことが多いと聞いていたため、進学することでディスカッション能力やプレゼンテーション能力が身につくことを期待していました。実際にディスカッション中心の授業に参加すると、受講生全員が積極的に発言するため、自分の考えや意見を発言しやすい環境であると感じました。このような環境のおかげで、発言への抵抗感がなくなり、学部生時代の自分では考えられなかったほど、積極的に自分の考えを表現できるようになったと感じています。

また、プレゼンテーション中心の授業では、事前にパワーポイントなどで資料を作成し、受講生の前で発表することが多く、その発表を基礎にディスカッションが行われるため、資料を作成する際も、どのようにすれば見やすく、わかりやすく、飽きられないかを意識して作成する習慣が身に付きました。また、発表の際には、相手に内容がしっかり伝わるよう、わかりやすくはっきりと伝えることを意識する習慣が身に

ついたと思います。

③北大ASでの勉強と会計士試験の受験勉強とはどのようにして両立させていますか

先ほども述べたように、授業が午前中に集中しており、自分の勉強時間を確保しやすい環境にあるため、両立はとてもしやすかったです。私は1年生の8月に論文式試験を受ける予定だったので、1年前期は1日1コマしか授業を取っていませんでした。このように、試験を目指す人のスケジュールに合わせて柔軟に授業を組み合わせることができる点も、北大ASの魅力だと思います。

修了生の声



蛭田浩平さん
2014年北大AS修了
2022年公認会計士登録

①北大ASを終章したあとの経歴を教えてください

北大ASを修了後、公認会計士論文式試験に合格し、大手監査法人(監査部門)に就職しました。そこでは、グローバル製造業の監査スタッフとして各種法定監査・SOX監査に従事しました。主に担当させて頂いたクライアント様が、日系企業としては珍しい、NYSE(New York Stock Exchange: ニューヨーク証券取引所)上場企業でしたので、US-GAAP(米国会計基準)や米国SEC監査、US-SOX法に基づく内部統制監査を経験しました。

その後、自らも海外に出てみたいとの想いが芽生え、アイルランド国立大学コーク校のビジネススクールへ留学し、経営情報(management information)に関する修士号を取得しました。

帰国後は今までの経験をもとに独立開業し、中小企業様の良き相談相手となれるよう、日々邁進しています。

②北大AS在学時の授業の印象はどうか

1学年20名以下と少人数でしたので、端的

にどれも少数精鋭の授業といった印象でした。毎週のように、ディスカッションやプレゼンテーション、ロールプレイングが授業に組み込まれており、どの授業も「会計、監査」とは何か、「企業活動」とは何かを、本質から考える良い機会となりました。

少人数ですので、教員の方との距離が必然と近くなり、その分しっかりとサポートしてもらえる事も北大ASの大きな魅力だと思います。

また、ディスカッション等の参加型授業が多いぶん、自然と他の学生とのコミュニケーションの機会も増えました。授業を通じて共に支え合う良い仲間たちと出会えた事は、私にとって現在も大きな財産になっています。

③北大ASでの学習は今の仕事にどのように活かしていますか

在学中、本質を考える力を養えた事が、私の仕事をする上での大きな基盤となっています。

現在は独立開業し、中小企業様をサポートさせて頂いておりますが、この中で基準にも書いていない事項や、調べても答えが出て来ない事例に多々出くわします。その際、原理原則に立ち返り、「本質は何か」の視点から考える事が、妥当な答えに辿り着く大きなカギになると私は考えています。北大ASでは、少人数制かつディスカッションやプレゼンテーション、ロールプレイング等の参加型の授業を積極的に取り入れていますので、会計人として生き抜いていく上で大事な視座を得る事が出来ると考えています。

以上、ご紹介してきたように、北大ASでの教育は、大人数・一方通行型の伝統的な授業とは異なり、学生自らが積極的に授業に参加していくことが求められます。

各講義は、「基礎科目」「応用科目」「実践科目」に分類されており、学生のニーズに合った履修が可能となるよう展開されています。また、基幹総合大学としての強みを最大限に活かし、経済学院の他専攻(現代経済経営専攻)を始めとして、他学院・研究科を含めた幅広い履修が可能としています。

北大ASで得られた能力・経験は、会計専門職として今後活躍していく皆さんをきっと様々な場面で助けてくれるはずです。